

妊 娠

〔2人の思い〕

結婚して産みたい、産んで育てたい！

【心配・不安な点】

- ①未受診…妊娠の確認「今何ヵ月？」
- ②家族への報告＝家族の協力
- ③結婚・入籍までの手続き
- ④夫婦が安心して暮らせる住居が必要
- ⑤出産までの定期通院
- ⑥金銭面



【現実と2人の強み】

- ①夫婦で産婦人科受診
赤ちゃんの心音を聞いて嬉しかった。
- ②2人とも親のサポートは望めない！
妻は望んでいない
- ③相談員に相談…婚姻届けの立会人のお願い
- ④町営住宅の確保・地域住民への理解
- ⑤夫、運転免許あり車購入
妻バス利用可能
- ⑥夫～一般就労
2人～障がい基礎年金2級支給

【どう動いたか／周囲の協力と支援】

- ②夫婦2人での出産・育児のスタートでした。
→自分たちの妊娠が否定されない周囲の理解と支援する機関があることを伝える。
- ③入籍の助言・婚姻届けの記入手伝い。母子手帳もらう。
- ④居住確保…役場に協力してもらい、町営住宅を確保してもらった。
(引っ越しの手伝いは、グループホームのメンバーと職員)
- ⑤出産、育児の過程を保健師を中心に定期的に伝え、本人のイメージにつなげる。
- ⑥支援していない

支援機関

○相談支援事業所 ○行政・保健師 ○教育委員会（健康アドバイザー）
→子育て支援グループ

【今後より支援が円滑になるには】

- 妻の定期通院…移動支援

出産・出産後

〔2人の思い〕

生まれてくる子どもの親になる！

【心配・不安な点】

- ①出産の準備？
- ②陣痛が始まった時の対応
 - ・夫が仕事でいなかったら…
- ③産後のサポート
 - ・家族の支援はないと思っている
 - ・夫…産休がどれくらい？
- ④出生後の手続き
- ⑤妻の産後うつ…妻町内に友人がいない



【現実と2人の強み】

- ①ネットで調べて、必要な物は準備できた。
- ②タクシーの対応も考えて、タクシー会社へ事前連絡入れる。
- ③夫と協力して行う
 - ・夫の母が、産後の手伝いに来てくれるとの連絡をもらっている。
- ④夫が役場に行く。
- ⑤妻、周囲へ自己発信が苦手。
町内に友人がいない。

【どう動いたか／周囲の協力と支援】

- ①②保健師、月1回程度自宅訪問し、定期通院の様子と母子手帳の記入。体調等確認する。
- ③季節が冬だったので、早めの入院も視野に入れて病院と相談していた。
- ④夫の母親が産後の手伝いに来てくれる。
 - ➔2日目妻から相談員に連絡が入る。やはり対人関係が苦手な事から、母親とうまく関係が持てず、ヘルプが入る。
 - ➔夫が仕事から戻るまで、母子で相談室で過ごす。その姿を見て夫「やっぱりダメだったか」ということで母親には帰ってもらっている。
 - ➔保健師自宅訪問（1週間）沐浴・授乳支援、母親の体調確認他
 - ※妻、安心して保健師のサポートを受ける。
- ⑤出生手続き…福祉課戸籍窓口の担当者助言
- ⑥夫の協力…育児参加
 - ➔夫の支援…相談員との面談等、妻を休ませるための対応を行う。

支援機関

○相談支援事業所 ○行政・保健師 ○夫の友人 ○子育て支援グループ
○助産師

【今後より支援が円滑になるには】

- 妻の定期通院…移動支援
- 妻の相談役…ピアサポーター的な役割をしてくれる機関

保育所

〔2人の思い〕

地域で普通に子育てをしながら暮らしていく。

【心配・不安な点】

- ①母親の育児疲れ…子どもから目が離されず、家事が思うようにできない。
- ②子どもの健診や予防接種が始まる
- ③2人目妊娠…夫の仕事も忙しいことから自分で通院しなければいけない時も多い。子どもはどうしよう。
- ④出産の時、長女はどうしよう。夫の仕事帰りが遅いのが不安。
- ⑤次女が生まれてから、次女の保育所への行き渋りが続く。母親の言うことが通らない。
- ⑥保育所の行事では、知り合いもいないので気持ちが進まない。



【現実と2人の強み】

- ①夫の協力…夜泣きする子どもを車に乗せて夜中のドライブ
- ②自分から保健師へ連絡して、準備等確認している。
- ③見てもらえる友人・知人がいない。親には頼みたくない。→一時預かり保育
- ④夫の仕事が遅い時は、相談員が子どもを迎えに行き、父親帰るまで預かる。
- ⑤夫の職場の休みが週1回、通勤にも時間がかかり、育児に参加できない状況。母親に精神的負担がかかっている状況から離職を考える。
- ⑥夫…GH利用の時、関わっていた職員が同じ保護者で参加していたので心強かった。

【どう動いたか/周囲の協力と支援】

- ①妻の困り感・ストレスは夫へ、夫の困り感やストレスは相談員へ…。夫の友人が地域にいたので、仲間と過ごしリラックスできる時間が夫にはあった。
- ③日中一時預かりの利用開始。次女出産後は、保育所入所。
→関係機関との連携は夫婦の了解のもと行う。保育所職員への引継ぎは、丁寧に行う。
また、障がい者だからといった見方ではなく、同じように接して欲しいと本人たちは思っていることを理解してもらう。
- ④母親が、子どもを預けること（関係ができていない人）を渋った。父親に頑張ってもらいたい。
- ⑤長女を保育所に送る時間、社協等で次女を預かってもらえるサポートを受けていたが、時間等の行き違いで支援が継続されなかった。
→夫の離職…育児に関わりやすい職場に変更する。朝長女を保育所に送り、帰りも迎えに行けるようになり、妻の育児負担が軽減された。時間的に融通が付きやすく、保育所等の支援が円滑になった。

支援機関

○相談支援事業所 ○行政・保健師 ○夫の友人 子育て支援グループ

【今後より支援が円滑になるには】

- 保育所…送迎のサポート
- 妻の相談役…ピアサポーター的な役割をしてくれる機関

小学校入学

〔2人の思い〕

みんなに支えられ、子どもの発達を見守っていく。

【心配・不安な点】

- ①就学準備…長女に遅れがあることは理解している。何となくみんなに付いて行っていると思っていた…。
- ②子どもの発達についての心配
- ③母親のクラスメートの親との関係づくり…。
- ④地域で暮らす



【現実と2人の強み】

- ①就学前の面談…普通学級か支援級の選択を迫られ（たように感じた）夫婦は自分達が責められているように感じ、自分たちの気持ちが言えなかった。普通級を選択してはいけなかったと思ってしまった。
- ②相談できる場所（人）がいる。
- ③他の親との関係は作れないが、行事には夫婦で参加できていた。
- ④冬は夫が玄関前の除雪をしてから出勤している。近所の高齢の方々から感謝されている。夫の友人が地域で暮らしている。

【どう動いたか／周囲の協力と支援】

- ①自分たちの意見を誰かに聞いてほしかった。
 - ➔夫婦から相談を受けた相談員が教育委員会を訪問し、夫婦の思いを伝える。教育機関との話し合いに相談員が参加し、夫婦の引継ぎを行った。
 - ➔参加者で共有することで、再度夫婦と面談し、お互いあゆみ寄ることができた。
 - ※1年目は普通級で入学し、そこでの様子から夫婦も納得し、2年目からは支援級（特別支援）に移った。
- ②夫の職場が、育児の悩み等職場の仲間が色々アドバイスしてくれる環境にあり、父親の精神面の負担を軽くしてくれる。
- ③小学校の保護者には、夫の知り合いも多くいて、保護者同志の仲間とし夫婦に声をかけてくれる。夫の職場の理解もあり、学校の行事にも休みやすい環境となった。

支援機関

○相談支援事業所 ○行政・保健師 ○夫の友人 ○夫の職場
○学校・教育委員会

【今後より支援が円滑になるには】

○支援グループの開催がなくなったことで、情報共有が出来なくなった。学校と相談支援機関との連携が必要

初動対応

1 妊娠中

- 入籍より妊娠が先になる場合もあります。入籍の助言。
- 家族（親）への報告～出産後のサポートが可能かどうかの確認
- 夫婦が安心して暮らせる住居が必要です。～町営住宅等
- 自分たちの妊娠が否定されない周囲の理解と支援する機関があることを伝える。
- 定期的な面談で妊娠中の体調の確認、出産までの不安を軽減する。出産の準備。
- 金銭面の助言

2 出産

- 無事に産まれたことへの喜びと感謝を支援者も含めた周囲のみんなと味わう。
- 陣痛が始まって病院へ向かう前の連絡（相談機関・保健師等）
- 家族のサポートがない場合～沐浴支援、母子の様子確認（保健師他）
- 父親の職場～産休はどれくらいか。夫にその間に行う手続き等の助言

3 出産後

- 授乳支援を含めた子どもと母親の体調確認。買い物支援。母親の育児疲れ。
- 父親の育児参加～男性保健師・相談員との面談等（経験者からのアドバイス）
- 食生活のアドバイス（栄養士等）
- 近隣住民との関係づくり…理解と協力

4 保育所

- 日中一時預かり…保育所と夫婦の関係づくりも含めて
- 保育所と相談員を含めた関係機関で支援グループを結成し。保育所へ両親の引継ぎ
- 関係機関との連携は夫婦の了解のもとまたは同席した中での話し合い
- 子どもの発達に関する支援体制

5 小学校

- 教育委員会と応援チームの連携 ※新しい関係機関との橋渡しは相談機関
- 夫婦の心配ごと（子供の発達）へのサポート
- 子どもの様子観察（専門機関ではなく、夫婦が愚痴をこぼせたり不安をぶつけられる関係性で見守っていける機関）

6 通院等

- 病院の紹介と通院のアドバイス